

めあて

文章を正しく読み取ろう

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

(これまでのあらすじ)

土曜日の夜、父さんがおみやげをわたしてくれた。プロの選手がはくような青いランニングシューズだった。めちゃめちゃ高いやつだ。

でも、ぼくは、はくかどうか、まだ、決めていない。

父さんはぼくに、これをはいて、また前みたいに元気に走り回れ、っていうんだ。

でもね、父さん、パウはいないんだよ。①パウがないのには、どうして走らなくちゃならないのさ。ぼく一人だ。

父さんを見たぼくの目が、そう言ったんだと思う。

「まあいい。がんばれ。ぼくを見た父さんの目が、そう言っていた。」

「うん。」

声を出しては何も言わない父さんに、ぼくは、声を出してそう言った。だけど、何が「うん。」なのだろう。何をどうがんばるのか。ぼくは、何も考えていない。このランニングシューズをはくことがあるかどうかだ、わからない。

②パウなしで、ぼくはランニングなんて、するだろうか。

「おやすみ。」

ぼくは、ランニングシューズをかかえて二階に上がった。

つくえの上に、ランニングシューズを置く。そして、少しはなれてながめてみた。

はくかどうかわからない青いランニングシューズは、とてもかっこよかった。

③これでパウがいたら最高だな。

でも、パウはいない。永久に。

パウはぼくの目の前で自動車のひかれて死んでしまった。

しば犬の子犬だったパウ、母さんのかける掃除機をこわがって、部屋じゅうを逃げ回った。

子犬。初めてとったばったを、得意になって帰ったら、ほめてもらえるどころか、しかられてしまったちっちゃな犬。そうして、なによりも、ぼくと走るのが大好きだったぼくの友達。

全く、パウは走るのがだいすきだった。子犬のくせにけっこう早い。だから、あいつとの散歩は散歩にならない。散歩だ。

「パウ、サンソールに行くぞ。サンソール。」

ぼくがひと言そう言うと、まるで、ウォーミングアップを始めた選手のように、手足をばらばらにばたつかせた。

パウは、走るの、本当に好きだったんだ。

サンソールするとき、ぼくは、学校にはいていてスニーカーで走った。

だんだんと走るのが上手になって、ぼくは、学校にはいていくスニーカーで走った。

スポーツ選手みたいなランニングシューズがほしいなんて思ったことは、一度もなかった。

パウがいなくなった次の日から、④ぼくは走らない子どもになった。

一 このお話のあらすじを次のようにまとめました。(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) の中に入る言葉
を、文章の中からぬき出して書きましょう。

大好きな友達だった(ア)が自動車にひかれて(イ)しまった。パウは、散歩ではなく(ウ)をするほど走るのが大好きな犬だった。パウと走れなくなった(エ)は、パウがいなくなった次の日から(オ)子どもになった。

二 下線部①「パウがないのには、どうして走らなくちゃならないのさ。」下線部
②「パウなしで、ぼくはランニングなんて、するだろうか。」という二つの文から、
ぼくはどのような子どもだということが分かりますか。次のア、イ、ウ、エの中から
適当なものを選びましょう。

- ア 父さんを嫌っていて、いつも反抗している子ども。
- イ パウがいなくて何もできない、気の小さな子ども。
- ウ パウといっしょだと走るといってわがままな子ども
- エ パウが大好きで、パウと走るのが大好きな子ども

三 下線部③「これでパウがいたら最高だな」という言葉から、ぼくのどのような気
持ちはわかりますか。次のア、イ、ウ、エの中から適当なものを選びましょう。

- ア 高くてもかっこいいランニングシューズをはいてパウよりも速く走り、パウ
に勝ちたいという気持ち。
- イ 高くてもかっこいいランニングシューズをはいてパウと走れたら、とてもう
れしいのという気持ち。
- ウ 高くてもかっこいいランニングシューズをはいて、パウがどのような顔をす
るか見たいという気持ち。
- エ 高くてもかっこいいランニングシューズをはいてパウと走って、みんなにじ
まんしたいという気持ち。

四 下線部④「ぼくは走らない子どもになった。」という言葉には、「ぼく」のどの
ような気持ちを表しているのでしょうか。次の(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) にあてはまる言葉をひらが
な四字で書きましょう。

パウをなくしたことに對する、深い() ()

振り返り	一オ	一ア
		一イ
	二	一ウ
	三	
	四	一エ